

大好きな地元のお米

茨城県立水海道第一高等学校附属中学校

二年 千田 佳凜

私の祖父母の実家は農家でお米を作っています。収穫したてのお米を頂いたり、家の近くの直売所で購入した美味しいお米を食べて育ちました。

祖父の実家がある取手市や私が住んでいるつくばみらい市ではどちらも古くから農業が盛んな地域で、家の周辺には田畑が広がり、

お米の成長を常に感じながら生活しています。つくばみらい市には米コンテストという大会があります。つくばみらい市の良質なお米が、今後より一層評価され、需要が高まることを目指し、生産者の意欲向上や、米の品質向上を図るために開催されています。同時に、みらい米フォトコンテストや、みらい米おにぎりコンテストもあり、つくばみらい市のお米の魅力を伝えたり、お米を中べし、食生活の推進をしたりしています。

今年の春には市の「毎日お米を食べよう運動」として自宅でもバケツ稲を食する体験セッ

トが希望者に配布されました。私も経験があ

り、今年も市役所や近所の庭先でもバケツ稲を

目にすることができて、米作りを身近に感じら

れ楽しみ方の一つになっっているのだなと思

ました。

また、つくばみらい市では市内産のコシヒ

カリを独自の精米技術で加工した栄養と美味

しさをおねえろえた「金芽米」を小中学校の

給食で提供しています。いかに市がお米に力

を入れているかが分かります。私が小学生の

時の給食は食卓に温かい「ご飯」が入って、お

かわり、するほど美味しかったです。記憶があります。

実際、私の家の食卓でもお米料理が多く並

び、炊きたてのほかほか「ご飯」は私の大好物で

す。いつもは大雑把な私なのですが、母に

「ご飯を炊いておいで！」

と頼まれる時だけは、計量から洗米、炊飯器

のスイッチを押すまで、丁寧かつ慎重になっ

てしまいます。そして家族にうまく炊けてる
と褒めてもらえるととても嬉しくなります。
しかし、お米の現状は生産量、消費量、価
格など様々な面で変化が見られます。お米の
在庫がなくなり、スーパーストアに売って
いるお米が手に入らなくなり、安価に食べら
れなくなっています。私の食生活は麺
やパンが中心になり、栄養が偏らないか不安に
感じてしまいます。

そんな時、解決策として備蓄米が売られる
ようになりました。備蓄米とは政府が凶作時
の供給不足に対応するため、備蓄しているお
米のことです。私の家では今、備蓄米を食べ
ています。しかし、いつも地域のおいしいお
米を食べている私からすると、いつもの味で
なく正直、とてもおいしとは言えません。
米不足の今では低価格で購入できる備蓄米
はとてもありがたいですが、いつも食べてい
る地域のおいしいお米を食べられないのはと
ても悲しいことだと気づきました。同時に、

地元で採れた新鮮な食材を味わうことができ
る地産地消のメリットを感じました。

私は電車通学をしていて、車内から見える

風景の一つに、田んぼ、アト、があります。

広大な田んぼに、紫稻、黄稻、白稻、

赤稻、などを使っているアトをします。米と

ころ、のつくばみらい市を感じられる風景で

す。

毎日当たり前のように食べているお米だか

らこそ、なくてはならないものなのです。こ

れからも、一粒一粒の大切さを忘れずに私は

おいしく笑顔で食べていきたいです。